

図 3 倶多楽 赤外熱映像装置*による日和山および大湯沼周辺の表面温度分布
(2007年5月22日 図2 ②方向から撮影)

・日和山山頂部の噴気孔からは白色の噴気が10m程度の高さまで噴出していました。噴気の様子はこれまでと大きな変化はなく、赤外熱映像装置*による観測では、大湯沼周辺の温度分布はこれまでの観測時(前回:2006年7月25日)と比べて変化は認められませんでした。

*赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図 4 倶多楽 大正地獄の泥混じりの熱湯の噴出状況
(左:5月3日 噴出の高さ 約3m 右:5月9日 噴出の高さ 約0.5m)

表 1 倶多楽 地震・微動の月回数 (上登別) 2006 年 10 月 1 日～12 月 22 日まで欠測

2006～2007 年	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
地震回数	1	3	2	2	×	×	>2	8	4	1	2	0
微動回数	0	0	0	0	×	×	>0	0	0	0	0	0

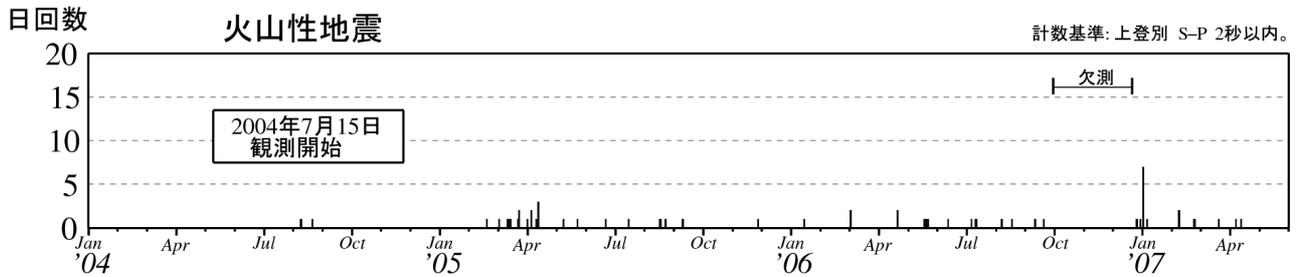


図 5 倶多楽 日別地震回数 (2004 年 7 月 15 日～2007 年 5 月 31 日)

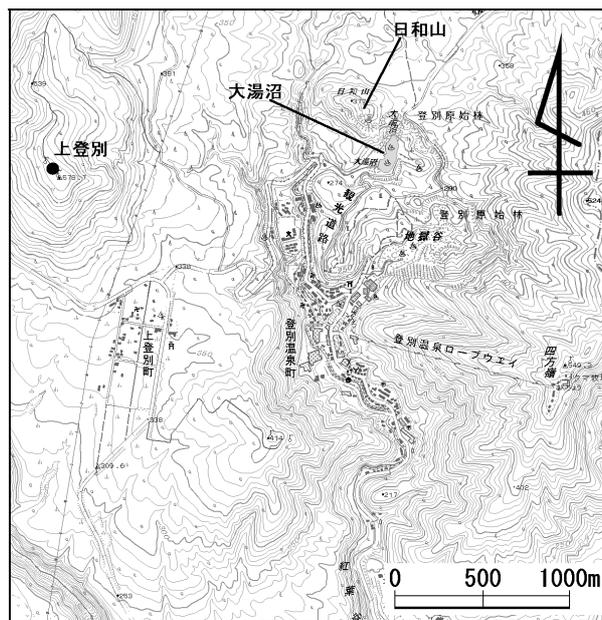


図 6 倶多楽 地震計配置図 (図中●)